

# 感染症の登園基準

乳幼児に多い感染症

**登園時には、登園許可証が必要です。**

## ●医師が記入した登園許可証が必要な感染症

病名	主な症状	感染経路	潜伏期間	感染可能期間	登園停止期間
麻疹 (はしか)	発熱・咳・くしゃみ、眼の充血、目やにが出る。 口内頬粘膜の白い斑点、全身に広がる赤い発疹。	空気 飛沫 接触	8～12日	発疹出現前2日～ 出現後4日頃	解熱後3日を経過し、 医師が登園を許可するまで
風疹 (3日はしか)	発熱とともに出現する全身への発疹。 痛みを伴うリンパ節の腫れ(頸部・耳の後ろ)。	飛沫 接触	16～18日	発疹出現前日7日～ 出現後7日	発疹が消失するまで
水痘 (みずぼうそう)	体・首のあたりから赤い斑点が広がり、顔面に 生じやすい。発疹は水疱になり、かさぶたの順に 進行する。痒みや痛みを訴えることもある。	空気 飛沫 接触	14～16日	発疹出現前2日～ 全ての発疹が かさぶたになるまで	すべての発疹がかさぶたに なるまで
結核	微熱、食欲不振、倦怠感、咳など長期に渡り続く。 家族に結核の患者がいる場合は疑う。	空気・飛沫 接触・経口	2年以内	痰の検査で陽性の間	医師が感染のおそれ ないと認めるまで
百日咳	咳の症状が長期にわたり続く。 連続した咳き込み後、ヒューと音を立てて息を吸う 特有の咳発作。発熱することは少ない。	飛沫 接触	7～10日	咳の出現～3週目頃	特有の咳が消失するまで 又は、5日間の抗菌剤治療 が終了するまで
咽頭結膜熱 (プール熱)	発熱・結膜炎・咽頭炎が主症状。 高熱、喉の痛み・赤み、頭痛、食欲不振、 頸部リンパ節の腫れ、結膜充血、目やになど。	飛沫 接触	2～14日	発症後 数日～数ヶ月	主な症状が消え 2日を経過するまで
流行性 角結膜炎 (はやり目)	目の充血、まぶたの腫れ、目やになど。	飛沫 接触	2～14日	発症後2週間	医師が感染のおそれ ないと認めるまで
急性出血性 結膜炎	白目の部分の充血、まぶたの腫れ、めやになど。	飛沫・接触 経口	1～3日	数週間～ 数ヶ月	医師が感染のおそれ ないと認めるまで
腸管出血性 大腸菌感染症 (O157等)	水様下痢便、腹痛、血便。	接触 経口	1日 ～ 8日	便中に菌が 排出されている間	医師が感染のおそれ ないと認めるまで
髄膜炎菌性 髄膜炎	発熱、頭痛、嘔吐など。	飛沫 接触	4日以内	有効治療開始後 24時間経過するまで	医師が感染のおそれ ないと認めるまで

## ●医師から登園可能と判断を受けた上で保護者が記入した届が必要な感染症

インフル エンザ	急に高熱が出て、寒気・頭痛・倦怠感・筋肉痛・ 咽頭痛など全身症状がみられる。	飛沫 接触	1～4日	発熱1日前～7日目頃	発症後5日を経過し、かつ 解熱後3日を経過するまで
マイコプラズマ 肺炎	咳、発熱、頭痛などの風邪症状。 咳は徐々に激しくなり数週間持続することもある。	飛沫	2～3週間	症状出現前数週間 ～出現後数ヶ月	症状が改善し全身状態が 良好になるまで
RSウイルス 感染症	発熱、鼻水、咳などの風邪症状から、 呼吸困難に至ることもある。	飛沫 接触	4～6日	3～4週間	症状軽減後、全身状態が 良好になるまで
感染性 胃腸炎	ノロウイルス感染症、ロタウイルス感染症など。 嘔吐、下痢、発熱が主症状。ロタ:白色下痢便。	経口・接触 食品媒介 空気	12時間～ 3日	発病後 約3週間	症状が治まり、普段通りの 食事がとれるまで
溶連菌 感染症	発熱、喉の痛みや、細かい赤みを伴う発疹。 しばしば嘔吐を伴う。苺の表面状の舌など。	飛沫 接触	2～5日	抗生剤内服後 24時間以内	抗菌薬内服後 24時間経過するまで
伝染性 紅斑 (りんご病)	風邪様症状の後、両頬に蝶のような形や 平手打ち様の紅斑がみられる。	飛沫	4～14日	かぜ症状出現 ～発疹が 出現するまで	発疹のみで全身状態が 良好になるまで
ヘルパン ギーナ	突然の高熱、喉の痛み、喉・口腔粘膜に、 赤い発疹、水疱、潰瘍がみられる。	飛沫・経口 接触	3～6日	1週間～ 数ヶ月	全身状態が良好になるまで
突発性発疹	突然の高熱が3、4日続き、解熱とともに 胸・背中を中心に発疹が出現する。	飛沫・経口 接触	10日	発熱している間	解熱し機嫌が良く全身状態 が良好になるまで
手足口病	手のひら・足の裏の水疱性の発疹、喉・口腔粘膜 に痛みを伴う水疱が出現。夏風邪の一種。	飛沫・経口 接触	3～6日	手足や口腔内に水疱・ 潰瘍が発生した数日間	発熱・重症の口内炎がな く、普段の食事ができるこ と
帯状疱疹	片側に帯状に群がる水疱、かゆみ、神経痛。	接触	不定	すべての発疹が かさぶたになるまで	すべての発疹がかさぶたに なるまで
流行性 耳下腺炎 (おたふくかぜ)	耳下腺・顎下腺・舌下腺などの腫れと痛み。 頭痛・発熱を伴うこともある。	飛沫 接触	16～18日	腫脹前7日～ 腫脹後9日	腫脹の発現後5日を経過し、 かつ全身状態が良好になる まで

## その他の乳幼児に多い感染症

登園許可証は不要です。

病名	主な症状	感染経路	治療方法	感染時期	感染可能期間	登園時の注意点
アタマジラミ	小児では多くが無症状であるが、吸血部分にかゆみを訴えることがある。	接触 (頭髮から頭髮への直接接触衣服や帽子、クシ、寝具を介する感染)	・アタマジラミ駆除用のシャンプー(3～4日おき)とすきグシ(毎日)の使用 ・衣類、シーツ、枕カバー、等を(55℃、10分間で死滅)で洗う、又は熱処理(アイロン、乾燥機、クリーニング)	夏季に多い	産卵から最初の若虫が孵化するまでの期間は10日から14日	・駆除用のシャンプーとすきグシを実施する ・シーツは毎日交換して熱処理する ・可能であれば、バンダナ着用(家族間でも感染に注意)
伝染性軟属腫(ミズイボ)	直径1～3mmの半球状丘疹。四肢、体幹等に数個～数十個が集まってみられることが多い。自然治癒もあるが、数ヶ月かかる場合がある。自然消失を待つ間に他へ伝播することが多い。アトピー性皮膚炎等、皮膚に病変があると感染しやすい。	接触	自然消失か摘除	1年中	水イボが存在する間	掻きこわし傷から滲出液が出ているときは被服する(ミズイボが多量または広範囲にみられる場合は感染防止のためプール禁止)
伝染性膿痂疹(とびひ)	水疱や膿疱が破れてかさぶたへと進行する。痒みを伴い、掻いた手で傷ができた部位に感染し広がる。	接触	経口抗菌薬と外用薬が処方されることがある。	夏季に多い	とびひが存在する間	・水疱・膿疱が破れている場合は、被服する(口周りは、マスク着用) ・医師よりプールの許可がでるまでプール禁止 ・爪を切る
単純ヘルペス感染症	口周囲の水疱、歯茎・口腔内の口内炎、発熱。(口唇ヘルペス、歯肉口内炎、性器ヘルペス等)	接触	アシクロビル等の内服、静注、軟膏	1年中	水疱を形成している間	・水疱は、被服する(口周りは、マスク着用)